

山行報告書

作成:2012年7月18日
愛知岳連 岡崎山岳会

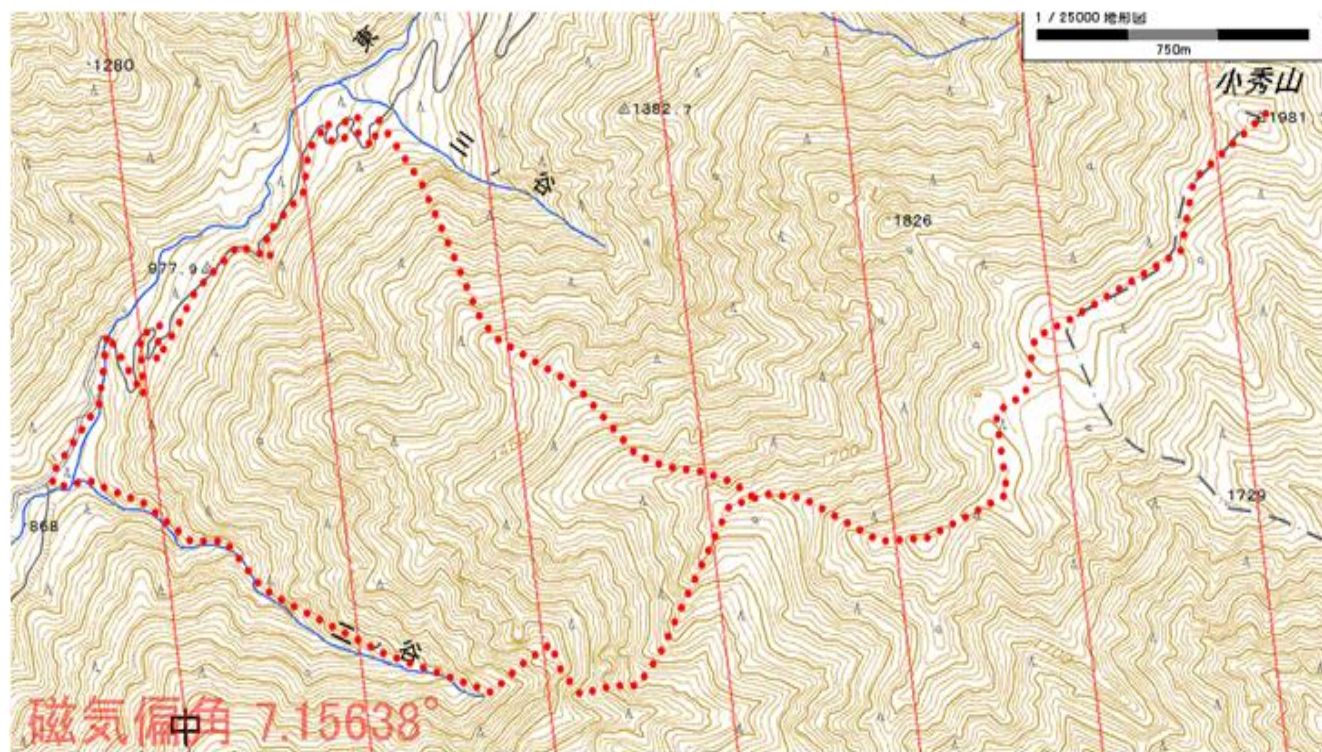
山名[山域]	小秀山(1981.7M) [中央アルプス]	目的[方法]	花を愛でる(歩荷トレ)
期間	2012年7月16日(月)	形態	日帰りピストン
参加人数	5人		

行動記録:

◇7/16(月) 曇り時々小雨、微風

岡崎市民病院 P(430) = 岡崎 IC = 中津川 IC-(530) = 道の駅花街道付知(550,600) = 乙女溪谷キャンプ場(635,700) = 三の谷登山口ゲート(700,710) --040-- 三の谷登山口(750,755) --100-- 地点休憩ポイント①付近(855,900) --200-- 二の谷分岐(1100,1115) --030-- 兜岩(1145,1200) --050-- 第3高原(1250,1255) --020-- 頂上避難小屋(1315,1355) --005-- 小秀山山頂 1981.7m(1400,1410) --330-- 三の谷登山口(1740,1745) --030-- 三の谷ゲート(1810,1830) = おんぼいの湯(1900,2020) = 道の駅花街道付(2030) = 中津川 IC = 恵那 SA(夕食) = 岡崎 IC = 岡崎市民病院 P(2200)

概念図:



日誌:

乙女溪谷キャンプ場に到着した時点では曇りであった。駐車場には浜松ナンバーの車が1台のみ。二の谷登山口はここから登るようだが、我々の三の谷登山口はまだ奥である。ここで準備をして登山口まで歩くつもりであったが、2台の車が我々を越して奥まで行く。登山準備をしたのち、奥まで車で行く事にする。最終ゲートまで行く事が出来、追い越して行った2台の車もゲート前に停まっていた。溪流釣りをするとのこと。三の谷ルートピストンを計画するのなら、ここまで車で来た方が良くと思われるが、帰りのルートを二の谷にするなら、最初の駐車場の方が良いと思われる。

ゲートを越えて登山口まで40分の道のりの中、雨が降ってきてレインコートを着用する。登山口からはつづら折りの連続で、ぬかるんだ道の中、歩荷トレには最適ではあるが、かなりの注意も必要である。1時間の後、休憩ポイントで松島CLより冷凍スイカがふるまわれる。生き返った気がした。途中、本日の目的でもある花(大山蓮華)を発見したが、まだ固いつぼみで残念であった。そしてこの後頂上まで、大山蓮華を見る事は無かったが、このつぼみが、数時間後、感動を呼ぶ事になるとは、この時は知る由もない。二の谷分岐を越え2時間半の後、兜岩に到着。10分前にもそれらしき岩があり、最初、兜岩と間違える。我々は偽兜岩と名付けた。本物の兜岩でとりあえず歩荷トレは終了。各自水等の荷物を捨てる。

兜岩をあとにして間もなく目指す避難小屋が見えるが、これがまた遠い。標高はすでに1850mを越えているので、高度は無いが、アップダウンの道が続く。70分程歩いた後、急に避難小屋が現れ、時間も遅れているので、小屋での食事となる。松島LCより、キノコとろろうどんがふるまわれ、食事の後には磯村SLよりお茶を点てて頂いた。私の登山歴の中で、後にも先にも山小屋でお茶を点てて頂いたのは初めての経験である。避難小屋と頂上は目と鼻の先で、頂上からの景色は…全く何も見えなかった。天候が良ければ御嶽山はもちろん、鈴鹿の山々の方まで見えるとの事。残念であった。

山頂で記念撮影の後、下山開始。遅れ気味なので、時間を意識して行くよう松島LCより指示がある。途中、行きでは気づかなかったが、待望の大山蓮華を発見し、しばし撮影タイム。しかし木の上部であったので、なかなか上手く撮れず。発見出来ただけでも良かったと言う事で、先に進む。そして、行きで見つけた大山蓮華のつぼみはどうなったかな?などと話し

ながら歩いてその場所に着くと、なんと開花しているではないか！この数時間の中で、開花したようであった。またまた撮影タイム開始。今度は位置も低く、各自良い写真が撮れたようであり、花の香りも「さわやかな甘さ」という香りであった。ちなみに大山蓮華の花ことばは「変わらぬ恋」だそうである。

遅れ気味の中、おおむね予定通りに三の谷登山口に着くが、ゲートまで行く途中で秀宝泉という水場があり、そこで汚れた靴等を洗っていたら、最終的に予定時間を若干オーバーしてしまった。

帰りに付知峡倉屋温泉「おんぼいの湯」で汗を流すが、遅い時間であった為夕食は終わっていた。道の駅付知で磯村SLと分かれ、恵那SAで夕食を取り、帰路に着く。

感想：

歩荷トレーニングと大山蓮華の鑑賞と言う目的であったので、この二つの目的は達せられた。特に歩荷トレは記録の富松以外は全員行っており、夏山合宿の直前トレーニングになったと思われる。3日間しか花を咲かせないと言われている、大山蓮華も見ることが出来、満足の行く山行ではあったが、天候がもう少し良かったら、最高であった。